

授業科目名 (英文表記)	紀伊半島の環境と生活 (The life and environment in Kii Peninsula)		
単位数	2	授業形態	講義
担当教員	足立 啓、金子 泰純、平田 隆行、宮川 智子、養父 志乃夫		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 11月28日(土) 10:30~16:00	担当: 足立 啓	
	第2回 12月5日(土) 10:30~16:00	担当: 養父 志乃夫	
	第3回 12月12日(土) 10:30~16:00	担当: 平田 隆行	
	第4回 12月19日(土) 10:30~16:00	担当: 宮川 智子	
	第5回 12月26日(土) 10:30~16:00	担当: 金子 泰純	

【授業のねらい・概要】

紀伊半島は黒潮の流れる海に囲まれ、かつ山深いという地理的な特徴を持っています。多雨地域であることや熊野信仰が根付くなど、紀伊半島には特徴的な風土があり、それに対応した暮らしや生業、文化が展開してきました。その一方、高齢化や災害対応、地球環境問題など、私たちが取り組まなくてはならない現代的な課題も生じています。この講義では、紀伊半島という地域の特徴とその生活について学び、環境に対応したこれからの暮らし方を考えます。

【授業計画】

第1回 「高齢化と地域福祉のまちづくり」

和歌山県は全国でも有数の少子・高齢化社会の進展が急速な地域であり、その対策が望まれています。住みなれた地域で子供たちから高齢者まで、誰もが安全・安心に生活を継続するための、地域福祉のまちづくりを考えます。

第2回 「里地里山の暮らしと紀州梅」

みなべ・田辺の瓜谷累層地域では、米作や紀州材生産に不適な条件を克服し、自然に順応した梅や備長炭生産等によって持続可能な暮らしを築いてきた。講義では世界農業遺産登録に向けた活動に学び今日的意義を考察する。

第3回 「民家と石垣から見る紀伊半島の地域性」

紀伊半島には多様な自然環境に対応した多様な民家が展開しています。気候風土と民家がどう対応しているのか、なぜそのような形状となるのか、地理的な分布をもとに考えます。さらに蔵や納屋、石垣についても考察します。

第4回 「町並みと集落から見る紀伊半島」

景観の見方や考え方、および関連する法制度について学ぶとともに、紀伊半島に見られる町並みや集落の事例をもとに、今後の景観づくりやまちづくりのあり方について考えます。

第5回 「ごみから地球環境を考える」

暮らし方(ライフスタイル)によって、ごみ(廃棄物)の量と質はどう変わるのか、また、ごみと地球環境問題とはどのように関係するのかを考えます。

【到達目標】

紀伊半島の環境と生活に関する知識を深める。

【教科書】

なし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

なし。必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価方法】

各回に、小テストまたは、レポートを課します。その合計の評価で、判定します。

【授業時間外学習】

学んだ概念や仕組みについて、復習と自主的に学習が必要です。

【履修上の注意・メッセージ】

基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自でわかりやすい入門書などを読んで理解を深めるようにしてください。